連載 第4回

八峰町ジオパーク構想

ジオサイトの紹介③

八峰町の子供たちは田老町を見ていた

合川南小学校児童13名をのみ込んだ大津波は1983年5月26日に発生した日本海中部地震と命名された大地震によるものでした。当然ながら八峰町でも甚大な被害を受けました。

その前年、奇しくも旧八森町の児童・6年生は修学旅行先を岩手県の田老町に決め、1933年の大津波から逃げおせた当時小学生だった古老から、その時の体験を語っていただきました。翌日、10mの高さがある防潮堤を歩きながら、町並みがしっかり守られている様子をつぶさに見学してきました。翌年私たちが津波に襲われることになろうとはつゆ知らずに……。

日本海沿岸地帯は短縮変形が進行中

その時、浜田海岸では地震発生後、約15分で津波第1波が約4mの高さで到達しました。その後海水はどんどん後退し（写真・上）、次に、第2波・第3波と来襲することになりますが、第1波で1個8トンもあるテトラポットが飛散した様子が見られます。これらの現象は八峰町沿岸全域に及び、小入川Aさん宅では住宅が全壊、そのときの様子を次のように話しています。

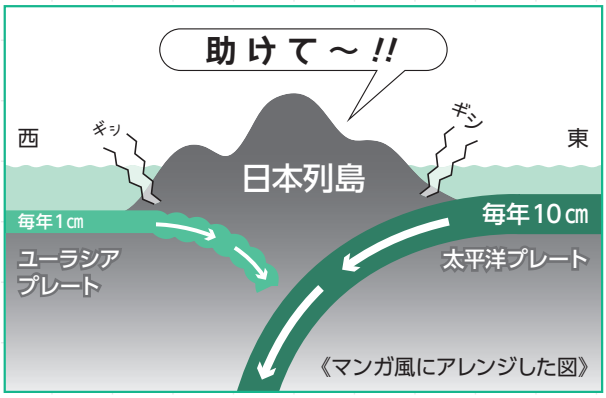
「地震のあと、間もなく岩と岩がぶつかったようなゴロンゴロンという音と、ゴーッという水の音が混じったものすごい音がしました。津波だと思い、とっさに壁にかけてある手綱帯（たなおび）を持って寝たきりでいるおばあさんに近づいた途端、真っ黒い泥水が玄関や窓からドッと入ってきました。おばあさんにパッと覆い被さったきり、私は意識がなくなりました。幸いにして助かったのですが、気がついたらおばあさんをしっかり右腕に抱いていました。」ベットが舟の役割をはたし、二人を屋外に流しだしたものだったようです。

去る4月14日、秋田大学名誉教授白石建雄先生からご講演をいただきましたが、その中で標記のお話がありました。

日本の東方海底に広がる太平洋プレートが毎年10cmの速さで日本列島方向に移動していて、また日本海海底に広がるユーラシアプレートが毎年1cmの早さで、これもまた日本列島方向に移動しているという。すると日本列島は両脇から押し縮められている格好になり「苦しいよー」と悲鳴を上げている状況にあることになります（下右図）。この力に耐え切れず、ついに一気に地層が切れたとき地震となるのだそうです。

写真下はこの度の大津波が田老町を襲った様子が撮られたものです。子供たちが歩いた10mもあるあの防潮堤をいとも簡単に乗り越え、守られるはずだった町並みが全く見えなくなってしまったことに戦慄を覚えます。

執筆　工藤　英美



岩手県宮古市の田老地区（旧田老町）を襲った大津波（写真　海上自衛隊提供）